

撃墜 (The Shootdown)

登場人物

コルヌコフ—アナトリ・コルヌコフ将軍、ソコル空軍基地の司令官(サハリン)。1998年1月22日にボリス・エリツィンによってロシアの新空軍司令官に任命された。彼は2002年の1月に引退するまでこの職に従事した。

ゲラシメンコ—空軍中佐、第41戦闘機連隊司令官代理

オシポビッチ—少佐。ゲンナジ・オシポビッチ。サハリンのソコルに配置された

コールサイン 805 のスホーイ 15 フラゴン(SU-15)迎撃機のパイロット

タラソフ—コールサイン 121 の SU-15 のパイロット。オシポビッチを援護する位置で飛んでいた。



チトーブニン—航空師団戦闘管制センター飛行発着係

時間は調整された一般的な時間で表されています(UTC、以前はグリニッチ標準時もしくは GMT)。サハリン上空では、1983年の9月1日の早朝です。

次の事は「007の救出」の22ページから26ページから引用されています。ロシア語の写しは1993年のICAO(国際民間航空機関)の報告からの写しです。オシポビッチの地上発着係、チトーブニンとの連絡は攻撃の後すぐ、アメリカ国家安全保障局によって捉えられ、ロシア代表団はとても無念だったが、アメリカによって国連の安全保障理事会に出させられた。解説はバート・シュロスバーグによってなされています。

コルヌコフ

ゲラシメンコ、指令基地の馬鹿騒ぎはやめ

てくれ。そのその騒音は何だ？私は戦闘

任務を繰り返す。ミサイルを標的 60-65

(KAL007)に向けて発射し、標的60-65を

撃墜せよ。

ゲラシメンコ

了解

コルヌコフ



アナトリ・コルヌコフ将軍、ロシアのプラウダの好意によって

従って、ここにタラソフを来させなさい。スマルニクよりのミグ 23 をコントロールしなさい。コールサイン 163、コールサイン 163、丁度、ミグが標的の後ろにいる。標的を撃墜せよ！

ゲラシメンコ

任務を受け取りました。標的 60-65 をミサイルで撃墜します。スミルニクからの戦闘機のコントロールを受け取ります。

コルヌコフ

任務を実行せよ、それを撃墜せよ！

007 便は短時間で脱出しなければならなかった。ジャンボジェットが上昇すると、そのスピードは減速し、エンジンの力は機体を持ち上げるために速度を変えていて、オシポビッチのスホーイ 15 はすぐに追いつき、すぐ乗客機に並行に並んだ。オシポビッチ少佐は発着係のチトーブニンと連絡して、いらだっていた。

オシポビッチ:(18 時 22 分 02 秒)

標的はスピードを下げています。

オシポビッチ:(18 時 22 分 17 秒)

私はその周りを回ります。もう既に標的の前に行っています。

チトーブニン

805(オシポビッチのスホーイのコールサイン)、スピードを上げろ。

オシポビッチ:(18 時 22 分 23 秒)

もうスピードは上げました。

チトーブニン

標的はスピードを上げたか？

オシポビッチ:(18 時 22 分 29 秒)

いいえ、スピードを下げています。

チトーブニン

805、標的を攻撃せよ。

オシポビッチ:(18 時 22 分 42 秒)

攻撃は早くするべきでした。どうやってそれを追うんですか？私は標的の真横にいます。

KAL007 便を追跡していたこの点でのオシポビッチの心の状態を見るには、次の文を見て下さい。撃墜から 8 年後の「イズベスチヤ」新聞のインタビューで語られた彼の考えが述べられています。

インタビュー

KAL007 便はスピードを下げました。KAL007 便は時速 400 キロで飛んでいました。私のスピードは 400 キロを越えていました。私はどうしても KAL007 便より遅く飛ぶことが出来ませんでした。私の意見では、侵入者の意図ははっきりしていました。私がかもし停止しなくなったら、彼らを追い越さざるをえませんでした。それがまさに起こったことなのです。私達はサハリン島を越えて飛んでいました。その場所は狭く、標的は逃げ去ろうとしていました。—ゲンナジ・オシポビッチ、1991 年「イズベスチヤ」新聞

チトーブニン

了解、可能なら、攻撃位置につきなさい。

オシポビッチ：(18 時 22 分 55 秒)

今、標的より、少し下がらなければなりません。

オシポビッチの苛立ちは、戦闘においてアメリカ人のパイロットに与えられているイニシアチブの自由と対比されて、ソビエトのパイロットは、ほとんどどんな動きに対しても、針路指示を受け、命令を受けなければならないという事実を反映していた。

KAL007 便は 18 時 23 分に 35,000 フィートの高さで、水平になった。今、KAL007 便には、オシポビッチのスピーチの「アナブ」中型射程の空対空ミサイルが全速力で後方から来るまでに、3 分の飛行時間しかなかった。そして、今度はコルヌコフ将軍が苛立ちと不安の表情をしていた。コルヌコフ将軍のゲラシメンコとの連絡から、KAL007 便がソビエトによって、ソビエトに脅威を与えたからではなく、逃げたという理由で撃ち落とされたのは明白だった。

コルヌコフ

おー(不快さを持って)、攻撃位置に来させるのにどのぐらいかかるんだ、そいつはもう中立水域に逃げているぞ。アフターバーナーを作動させよ。ミグ 23 を連れて行け…おまえが時間を浪費している間に、それがそのまま飛び去ってしまうぞ。

(コールサイン 163) のミグ 23 の支援を受け、8 キロメートルの距離で、彼の KAL007 便の破壊になる信念を実行する。(彼は迎撃機が、爆発した旅客機の破片を受けないように標的を追い越した。)

ここでまた我々は 007 便を追跡していた決定的な時点におけるオシポビッチの心の状態を見ることが出来る。前述の 1991 年の「イズベスチヤ」のインタビューからの彼の考えをもっと知るには次の文を見てください。

インタビュー

「そして地上の発着係りは命令を下しました。『標的を撃墜せよ…！』それを言うのは簡単でした。しかしどうやって？ 砲弾で？！ 私はもう 243 周もしたんですよ。それと衝突するんですか？ 私は不十分な考えとして、その事をいつも考えていました。衝突は最後の手段でした。もしかの事を考えて、旋回し、KAL007 便の先端に降りていました。その時、ある考えが浮かびました。私は 2000 メートルの位置まで KAL007 便の方へ降りて行き…アフターバーナーをかけました。ミサイルのスイッチを入れ、急いで機首を持ち上げました。成功だ！ 私は照準を定めたぞ。」ゲンナジ・オシポビッチ、1991 年の「イズベスチヤ」新聞

チトーブニン

805、自動機関砲で標的を攻撃せよ。

オシポビッチ:(18 時 22 分 37 秒)

私は後方に下がっています。今度はロケット弾を試してみます。

チトーブニン

了解。

ミグ 23(163):(18 時 23 分 49 秒)

標的まで 12 キロメートルです。両方見えます。(オシポビッチがパイロットのソビエトの迎撃機と KAL007 便)

チトーブニン

805、標的に近づき、撃墜せよ。

オシポビッチ:(18 時 24 分 22 秒)

了解。照準で捉えています。

チトーブニン

805、標的に近づいているか？

オシポビッチ:(18 時 25 分 11 秒)

標的に近づいていて、KAL007 便は照準の中にあります。標的までの距離は 8 キロメートルです。

チトーブニン

アフターバーナーをかけろ。

チトーブニン

805、アフターバーナーをかけろ！

オシポビッチ:(18 時 25 分 16 秒)

もうすでにかけています。

チトーブニン

発射せよ！



スホーイ 15 TM フラゴン

KAL007 便の操縦席に対しての興味深い一見のため(また聞くため)、「破壊からの脱出」につながる、明らかになっていくドラマを見るには、「ミサイルが爆発した時、KAL007 便に何が起こったか？」の質問と解答の所をクリックして下さい。

オシポビッチ:(18 時 26 分 20 秒)

発射しました。

オシポビッチ:(18 時 26 分 22 秒)

標的は撃墜されました。

チトーブニン

攻撃を止め、右に向かい、360 に進め。

オシポビッチ:(18 時 26 分 27 秒)

攻撃を止めます。

1996 年、オシポビッチは彼が撃ち落したのは民間機だった事に対する以前の否定を覆した。

「私は二つの窓の列を見て、これがボーイングのだとわかった。」彼は言う「私はこれが民間の航空機だと分かった。しかし、私にとってこの事は何の意味も成さなかった。民間のタイプの航空機を軍用に変えるのは簡単だ。」(1996 年 9 月 9 日のニューヨークタイムズのインタビュー)